

kuraray

株主の皆様とのコミュニケーションツール

クラレ通信

第139期 期末報告書
2019年1月1日～2019年12月31日

証券コード:3405

CONTENTS

株主の皆様へ	01
決算概況・業績予想	03
社長インタビュー	05
財務情報	07
クラレグループトピックス	09
クラレの事業所探検 西条事業所	11
株式情報	14
会社概要	巻末





2019年度について

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年度(2019年1月1日～2019年12月31日)の世界経済は、長期化する米中貿易戦争と各地域における地政学的リスクの顕在化に伴い、期を追うごとに不確実性が増大し、減速の傾向が浮き彫りになりました。このような状況において、経営成績につきましても、売上高は前年同期比27,188百万円(4.5%)減の575,807百万円、営業利益は11,620百万円(17.7%)減の54,173百万円、経常利益は12,896百万円(21.1%)減の48,271百万円、親会社株主に帰属する当期純損失は1,956百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益33,560百万円)と前年同期を下回る結果となりました。なお、当連結会計年度において、2018年5月に米国子会社で発生した火災事故に対する訴訟に関し、和解費用を含む合理的に見積りが可能な損失など(50,590百万円)を特別損失に、受取保険金(10,360百万円)を特別利益に計上しました。

当社グループは「独自の技術に新たな要素を取り込み、持続的に成長するスペシャリティ化学企業」の実現を目指して、2018年度よりスタートした中期経営計画「PROUD 2020」で掲げた主要経営戦略の具体的施策を順次実施し、

中長期的な視点に基づく、新たな事業ポートフォリオ構築に継続して取り組んでおります。「PROUD 2020」におけるこれまでの2年間は、イソプレンにおけるタイ新工場の投資決定や、世界最大の活性炭メーカーであるカルゴン・カーボン社の買収と統合シナジーの発現など、将来の安定したポートフォリオの構築への取り組みを強化してきました。また、光学用ポパールフィルムや水溶性ポパールフィルムの設備増強など、成長に向けた施策についても着実に実行しました。

2020年度は、米中通商交渉の第一段階の合意や英国EU離脱決定に伴い、欧州、中国において底入れへの期待が出始めてきたものの、米国で継続する保護主義政策や大統領選挙の行方、中東情勢の変化に伴う原燃料価格の動向などが、世界経済の減速に繋がる可能性も懸念されます。また、感染が拡大する新型コロナウイルスについては、現時点でその影響度合いを正確に予測することはできませんが、終息が長引くことになれば、事業環境は一時的かつ急速に厳しい局面に陥ることも考えられます。このような環境ではありますが、「PROUD 2020」最終年度にあたり、主要経営戦略の残された施策を確実に実行していくとともに、設備投資を行った事業における早期の業績貢献化や、買収した活性炭事業におけるシナジー発現の加速など、キャッシュフローの創出に一層注力してまいります。

また、当社は株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題とし、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させるべく、株主の皆様に対する経営成果の還元と将来の成長力の確保に配慮しつつ、適正な利益配分を行うように努めております。「PROUD 2020」(2018年度～2020年度)期間中においては、親会社株主に帰属する当期純利益に対する総還元性向35%以上、且つ1株につき年間配当金40円以上としています。

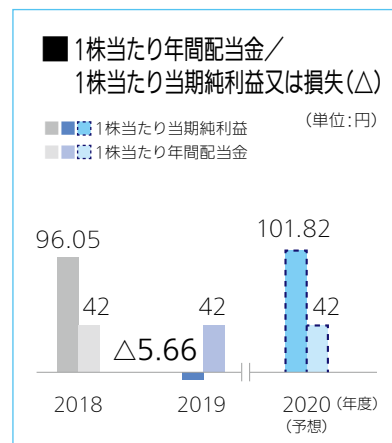
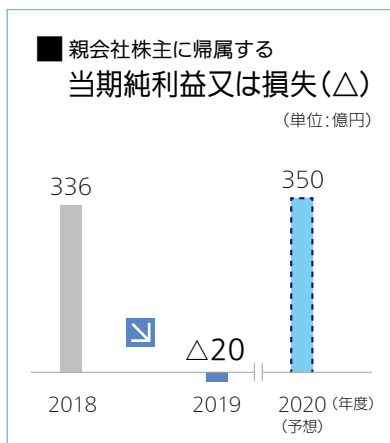
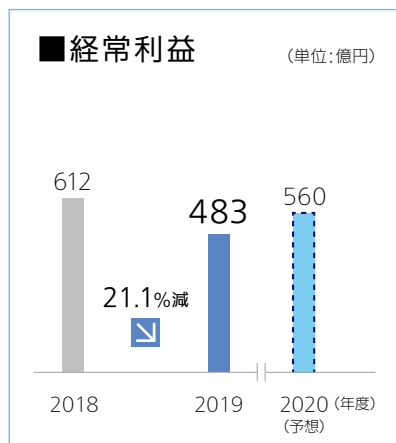
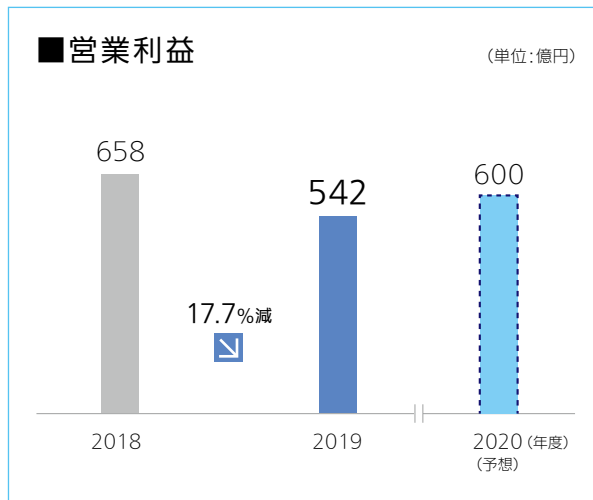
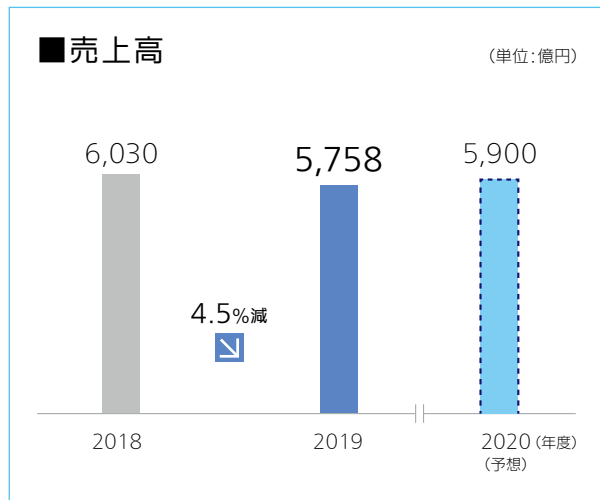
この方針の下、2019年度の期末配当金は期初予想値のとおり1株につき22円とさせていただき、当期の配当金は、中間配当金と合計しますと1株につき42円となります。なお、2019年度は、資本政策の一環として、500万株、約66億円の自己株式の取得を実施しました。2020年度の年間配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の予想値350億円を前提に年間配当42円(配当性向41.2%)とさせていただく予定です。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 伊藤 正明

決算概況・業績予想

当社の2019年度の業績は、世界的な景気減速の影響により多くの事業で販売が減少し、減収減益となりました。また、米国子会社で発生した火災事故に対する訴訟に関する損失を計上したことにより、最終損益は△20億円となりました。



前提としている平均為替、国産ナフサ価格

- 2018年度:米ドル110円、ユーロ130円、国産ナフサ51千円/kg
- 2019年度:米ドル109円、ユーロ122円、国産ナフサ43千円/kg
- 2020年度:米ドル105円、ユーロ120円、国産ナフサ43千円/kg

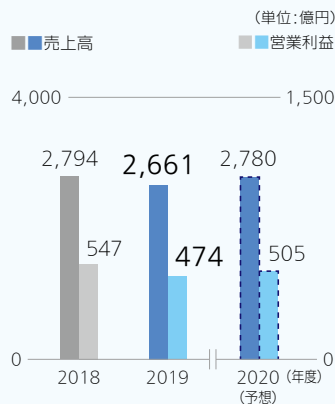
「PROUD 2020」(2018年度～2020年度)期間中の株主還元

- 総還元性向:35%以上
- 1株当たり年間配当金:40円以上
- 自社株買い:弾力的に実施

セグメント別の概況

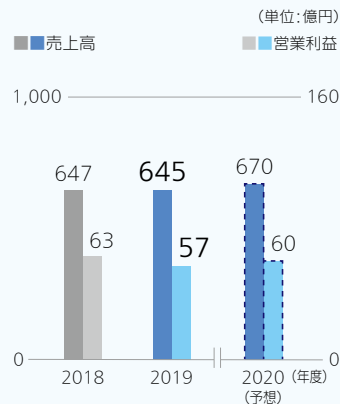
ビニルアセテート

ポパール樹脂は景気減速により販売量が減少しました。光学用ポパールフィルムは、液晶パネルの在庫調整の影響を受け、出荷が減少しました。PVBフィルムは、建築用途でアイオノマーガラス中間膜〈セントリガラス〉の需要が伸びましたが、自動車用途は苦戦しました。一方、水溶性ポパールフィルムは個包装洗剤用途の販売が拡大しました。EVOH樹脂〈エパール〉は、ガソリタンク用途で自動車生産台数減少の影響を受けました。食品包材用途は、第3四半期以降、徐々に販売の回復が進みましたが、年度では数量が減少しました。



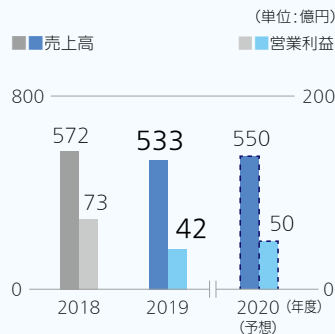
繊維

人工皮革〈クラリーノ〉は、ラグジュアリー商品用途が引き続き堅調に推移しましたが、靴用途は苦戦しました。ピニロンはセメント補強用が低調に推移し、ゴム資材向けも自動車生産台数減少の影響を受けました。一方、〈ペクトラン〉は輸出を中心に拡大しました。〈クラフレックス〉は汎用品の数量が減少しましたが、高付加価値品の販売が拡大しました。



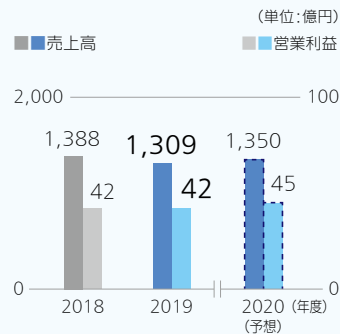
イソプレン

イソプレン関連では、景気減速の影響を受け、熱可塑性エラストマー〈セプトン〉の販売量が減少しました。耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉は、電気・電子デバイス向けの需要が停滞しました。一方、車載用コネクタ向けの新規採用が進みました。



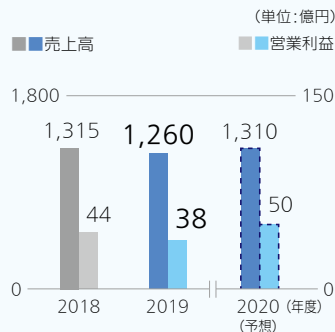
トレーディング

スポーツ衣料用途などの縫製品販売が堅調に推移し、高性能原糸の輸出も拡大しました。一方、樹脂・化成品関連事業は中国向けを中心に輸出が苦戦しました。



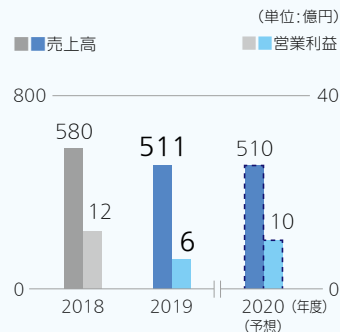
機能材料

メタクリルは、樹脂の販売が減少したことに加え、市況悪化の影響を受けました。メディカルは、歯科材料の審美修復関連製品を中心に堅調に推移しました。カルゴン・カーボンは、北米での需要は底堅く推移しましたが、欧州は需要停滞に伴い伸び悩みました。炭素材料は高付加価値品の販売が拡大しました。



その他

当セグメントはアクア事業、新事業のほか、エンジニアリング事業など国内関連会社を含んでいます。当期は、国内関連会社の販売が低調であったのに加え、研究開発費等が増加しました。



世界経済の減速影響を受け減収・減益も、 2020年度は成長軌道への回帰を目指す。



代表取締役社長 伊藤 正明

Q1

2019年度を振り返って
いかがでしたか。

A 2019年度は、米中貿易戦争の長期化や地政学的リスクの顕在化に伴い、世界経済が期を追うごとに減速したことや、米国子会社の火災事故に係る訴訟など、クラレグループにとって逆風の一年となりました。

当社事業においても主要用途である自動車、ディスプレイ、電気・電子デバイス産業の需要が減退し、ビニルアセテートで光学用ポリアルフィルムが液晶パネル在庫調整の影響を受け、出荷が減少したほか、ガスバリア樹脂〈エパール〉においては火災の影響で一時的に低下した販売量の回復が遅れました。また、イソプレンにおいても熱可塑性エラストマー〈セプトン〉、耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉は景気減速の影響で販売量が減少しました。その結果、売上高5,758億円、営業利益542億円、経常利益483億円となり、計画を下

回る結果となりました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益は、前述の火災事故に係る訴訟関連損失を計上したため、△20億円となりました。

Q2

2019年度に実施した施策を
教えてください。

A 「PROUD 2020」の2年目となる2019年度は、業績面では厳しい状況が続きましたが、長期ビジョン『Kuraray Vision 2026』で掲げたありたい姿の実現に向け、主要経営戦略の具体的施策を着実に実行しました。

2018年末に投資決定をしたタイにおけるブタジエン誘導品生産プラントは2019年9月に定礎式を行い、2021年末の完工に向け順調に動き始めています。また、買収を完了して2年目となるカルゴン・カーボン社との統合を着実に進めました。成長に向けた投資では、ビニルアセテートで光学用ポリアルフィルムの広幅ニーズに対応する新設備が2019年度末に完工し、2020年1月より稼働を開始しました。高機能建築用途の需要が高まるアイオノマーガラス中間膜〈セントリガラス〉はチェコ工場では2019年7月より生産を開始し、水溶性ポリアルフィルムも個包装洗剤の旺盛な需要を背景に、米国既存工場を進めていた能力増強を完了するとともに、2020年上期の稼働を目指し米国新工場の建設を進めています。また、繊維関連事業では、高機能不織布の需要拡大に対応するためメルトブローン不織布の生産設備増設を決定し、2020年後半の稼働を予定しています。加えて、新事業領域の拡大として、新たに液晶ポリマーフィルムを用いた銅張積層板〈ベクスター®FCCL〉の量産試験設備の導入を決定しました。そのほか、働き方改革では、ノー残業ウィーク制度の本格導入や在宅勤務・フレックス勤務制度、勤務間インターバル制度の導入、改革の結果として残業を

減らすことが出来た部署に減った時間外労働手当分を賞与で還元する制度の運用など、制度面の充実を図りました。

Q3

2020年度の重点施策を教えてください。

A 2020年度の世界経済は、依然として視界不良が続き、当社事業を取り巻く環境も向かい風が続くことを想定しています。このような環境ではありますが、引き続き、将来の安定したポートフォリオの構築によるさらなる成長を目指し、「PROUD 2020」で掲げた主要経営戦略の具体的施策を確実に実行してまいります。

グローバルに需要拡大が続く水溶性ポパールフィルムは、2020年上期に稼働開始を予定している米国新工場とは別に、2020年初頭にポーランドにおける新工場の建設を決定し、2022年の完工を目指し建設を進めていきます。また、〈エパール〉において米国工場の火災事故影響により遅れていた新工場の検討に加え、活性炭事業のさらなる拡大を目指し、カルゴン・カーボンの能力増強の投資検討を行います。そのほか、バイオマス由来のガスバリア材〈プランティック〉では、米国の樹脂工場を2020年に稼働開始し、世界的に高まる環境対応型食品包材ニーズの追い風に乗り、北米を中心とした事業の拡大を目指します。

また、次世代に向けた人材育成の強化、技術・ノウハウ継承の推進などを目的に「新研修所」の設立に向けた準備に着手するほか、引き続き、働き方改革への取り組みを強化していきます。

Q4

信頼いただける会社づくりを目指して

A 当社は、2019年11月に特定活性炭の製造・販売に関して、公正取引委員会より排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。2017年3月にも、特定ビニロン製品の入札に関して排除措置命令を受けており、これら二度にわたる排除措置命令に関して、株主

の皆様に対し、大変ご心配をおかけしていることを深くお詫び申し上げます。

当社は、事態の重大性を厳粛かつ真摯に受け止め、独占禁止法の遵守を経営上の最重要課題の一つとし、社員教育の充実や規則の改訂、社内調査や体制の強化を行ってまいりました。今後もこうした再発防止に向けた各施策に全力で取り組むことで、コンプライアンスの徹底を図り、信頼回復に向けて一層の努力をしております。

また、2018年5月に米国子会社で発生した火災事故に関し、被害を受けられた外部委託業者の作業員などから民事訴訟が提起され、訴訟は現在も係属中です。事故が発生したプラントは安全対策などの再発防止策を施した上で既に運転再開しています。今後、二度とこのような火災事故を起こさないために、今まで出来ていたことが出来なくなっていないか、管理項目に抜けや不足が無いか、安全に関する過心・慢心に繋がっていないかという観点を踏まえ、2019年度より、クラレ本社による海外プラントの安全監査を実施し、抽出された改善点に順次対処しています。2020年度以降も引き続き国内外プラントにおける安全活動と対策のさらなる強化、および管理システムやマニュアル見直し・改善、社員教育の充実などに取り組んでまいります。

当社は、企業ステートメントの行動原則に「安全はすべての礎」を掲げています。製品の安定供給を維持するためにも、すべてのステークホルダーから信頼され続けるためにも、安全が最優先であることを今一度心に刻み、「安心して働ける会社、事故の起こらない会社」の実現を目指してまいります。



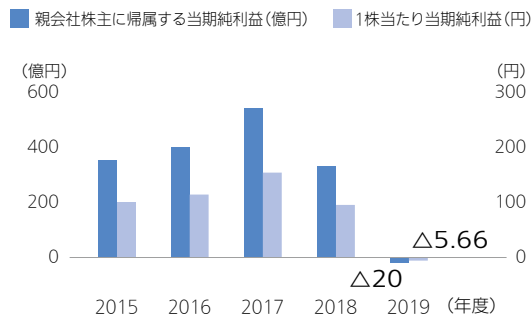
売上高

5,758 億円

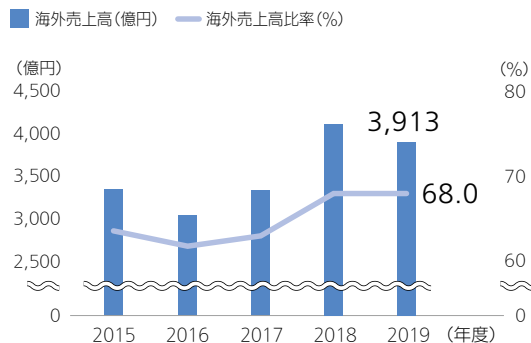
親会社株主に帰属する
当期純利益
又は親会社株主に帰属する
当期純損失(△)

△ 20 億円

親会社株主に帰属する当期純利益又は損失(△)・ 1株当たり当期純利益又は損失(△)



海外売上高推移



■連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

	当期*1	前期*2
売上高	5,758	6,030
営業利益	542	658
経常利益	483	612
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△ 20	336

■連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

	当期*1	前期*2
営業活動によるキャッシュ・フロー	956	752
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 894	△ 1,870
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 15	1,141
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	△ 12
現金及び現金同等物の増減額	46	11
現金及び現金同等物の期首残高	713	702
現金及び現金同等物の期末残高	760	713

*1: 2019年1月1日~2019年12月31日

*2: 2018年1月1日~2018年12月31日

●損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

総資産

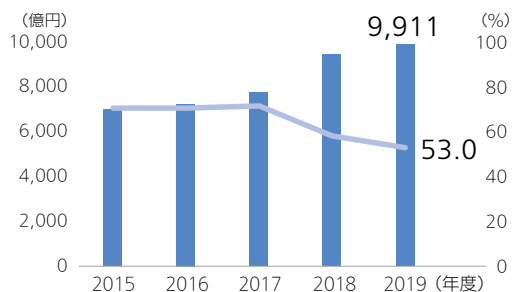
9,911 億円

自己資本

5,252 億円

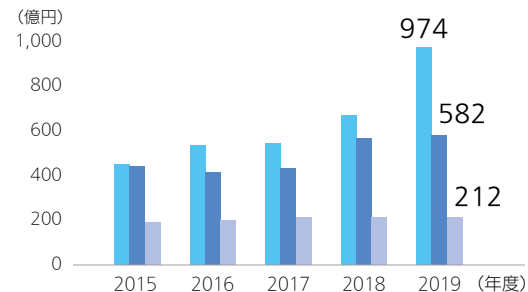
総資産・自己資本比率

■ 総資産(億円) — 自己資本比率(%)



設備投資額・減価償却費・研究開発費

■ 設備投資額(億円) ■ 減価償却費(億円) ■ 研究開発費(億円)



■ 連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

	当期*1	前期*2
資産の部		
流動資産	3,947	3,949
固定資産	5,964	5,522
有形固定資産	4,148	3,574
無形固定資産	1,299	1,442
投資その他の資産	517	506
資産合計	9,911	9,471
負債の部		
流動負債	2,017	1,448
固定負債	2,509	2,353
負債合計	4,526	3,801
純資産の部		
株主資本	5,082	5,313
その他の包括利益累計額	170	242
新株予約権	7	6
非支配株主持分	127	110
純資産合計	5,385	5,670
負債及び純資産合計	9,911	9,471

*1:2019年12月31日現在

*2:2018年12月31日現在

TOPICS

2019年度のクラレグループの
主なニュースをご紹介します。

9月



定礎式に参加したクラレ、GC、住友商事の関係者

Kuraray GC Advanced Materials社、Kuraray Advanced Chemicals(Thailand)社の定礎式を開催

タイのラヨーン県マブタブット、WHAイースタン工業団地において、上記2社の定礎式を執り行いました。当社の代表取締役社長 伊藤正明は式典に出席し、「これらのビジネスは、社会や人々の生活の向上に貢献するとともに、タイの東部経済回廊(EEC)の開発にも貢献すると考えている」と語り、イソプレン関連事業の意義の大きさと将来への期待を示しました。

※Kuraray GC Advanced Materials社:タイでのブタジエン誘導品の製造・販売を目的に、当社とPTT Global Chemical Public Company Ltd.、住友商事株式会社の3社が共同出資した合併会社

※Kuraray Advanced Chemicals(Thailand)社:タイでのイソプレン誘導品MPD(3-メチル-1,5-ペンタンジオール)製造・販売を目的に、当社単独出資で設立した会社

9月

「ホワイト物流」推進運動の 自主行動宣言を提出

トラックドライバーの働き方改革などを旨とする「ホワイト物流」推進運動。当社は、国土交通省・経済産業省・農林水産省が提唱するこの運動に賛同し、取引先や物流事業者との連携の下、物流環境の改善に取り組むことを明文化した「自主行動宣言」を提出しました。近年、長距離輸送の手段を鉄道コンテナ輸送に置き換えるモーダルシフトを推進し、2018年5月に公益社団法人鉄道貨物協会から「鉄道貨物輸送功労者賞」を受賞するなど積極的な物流改善に努めています。

10月



クラレグループ展示ブース

ドイツで開催された世界最大規模の展示会 「K 2019」に出展

3年に一度ドイツのメッセ・デュッセルドルフで開かれる世界最大規模のプラスチック・ゴム産業展、「K 2019」に出展。今回の主要テーマの一つ「サーキュラーエコノミー」に合わせ、当社からはバイオマス由来水素添加スチレン系エラストマー〈セプトン®〉BIO-シリーズ、EVOH樹脂・フィルム〈エパール®〉、バイオマス由来のガスバリア材〈PLANTIC™〉、人工皮革〈クラリーノ®〉、水溶性パールフィルム、熱溶融成形が可能なPVA樹脂〈MOWIFLEX™〉など、環境に配慮した特色ある製品を紹介しました。

11月



渋谷スクランブルスクエア

渋谷スクランブルスクエアに、合わせガラス用PVB中間膜〈トロシフォル®〉が採用

渋谷再開発の象徴的存在として駅前に建設された「渋谷スクランブルスクエア」。この超高層ビルの外壁合わせガラスに、当社のPVB中間膜〈トロシフォル®〉ウルトラクリアーが採用されました。強靱かつ耐久性に優れた接着性により、万が一の破損時にもガラスの飛散を防止するなど、ビルとその周辺の安全を守ります。またPVB中間膜の中で最も透明性が高いグレードの製品のため、ビルのほぼ全面に使用されるガラスの美しさを損なうことなく、美観にも貢献します。

12月



ランドセルの検品に集まったボランティアの皆さん

第17回企業フィランソロピー賞 「笑顔をお届けま賞」を受賞

当社の社会貢献活動「ランドセルを海を越えて」が、公益社団法人日本フィランソロピー協会が主催する「第17回企業フィランソロピー大賞」において、「笑顔をお届けま賞」を受賞。この活動は、全国からお送りいただいた使用済みのランドセルを、社員を中心としたボランティアが一つひとつ検品し、ノートやえんぴつなどを詰め、物資が不足しているアフガニスタンの子どもたちにプレゼントするものです。2004年から活動を開始し、これまでに12万7,993個のランドセルが海を渡りました。

1-6月

2019年1-6月の クラレグループトピックス

- メルトブローン不織布 生産設備の増設
- 「クラレの真ん中^{ハート}を知る時が来た」シリーズCM 第3弾を放映
- 東京本社を「本社」、大阪本社を「大阪事業所」へ変更
- 米国デトロイト事務所の開設
- 銅張積層板〈ベクスター®FCCL〉の量産試験設備導入・サンプル出荷開始
- 「地球へ社会へ未来へ G20 イノベーション展」に出展
- チェコ共和国で〈セントリグラス®〉の生産を開始

クラレの 事業所探究 シリーズ



クラレの将来の成長を支える

西条事業所



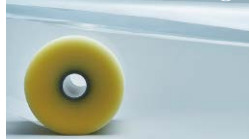
瀬戸内海の^{ひうち}灘に臨む工業地帯の一角に位置するクラレ西条事業所(愛媛県西条市)は、クラレグループの中でも今後さらなる成長が期待される多くの製品を生産している事業所です。液晶ディスプレイに欠かせない光学用ポパールフィルムや耐熱性に優れたポリアミド樹脂<ジェネスタ>、高機能ポリエステル長繊維<クラベラ>、高強度ポリアリレート繊維<ベクトラン>、液晶ポリマーフィルム<ベクスター>などを生産しています。



主な製品群

: 世界トップシェア製品

光学用ポパールフィルム



●機能・特徴

偏光フィルムの性能に重要な光の制御と、高い透過率の特性を持つフィルムです。

●用途

大画面テレビ、タブレット端末などの液晶ディスプレイに欠かせない偏光フィルムに使われています。

●西条事業所生産能力
13,200万㎡/年

<クラフレックス-MB>



●機能・特徴

メルトブローン技術により通気性と防水性を兼ね備えた不織布で、様々な樹脂を応用することで、用途に応じた性能を与えることができます。

●用途

マスクや各種フィルター、救急絆布、食品包材などに使われています。

●西条事業所生産能力
1,800t/年

耐熱性ポリアミド樹脂 <ジェネスタ>



●機能・特徴

高い耐熱性を持ち、耐薬品性にも優れた樹脂です。

●用途

携帯電話やパソコンなどの電子部品のコネクタやLED光源の反射板、自動車部品にも使われています。

●西条事業所生産能力
4,000t/年

高機能ポリエステル繊維 <クラベラ>



●機能・特徴

独自ポリマーの応用により、様々な差異化された特徴を持った繊維です。

●用途

衣料やインテリア用品、産業資材分野などに使われています。

●西条事業所生産能力
10,000t/年

高強度ポリアリレート繊維 <ベクトラン>



●機能・特徴

低吸湿性に加え、優れた引張強度や耐磨耗性を備えた繊維です。

●用途

強度が求められるロープ、海底ケーブルやスポーツ用品など、幅広い分野で使われています。

●西条事業所生産能力
1,000t/年

西条事業所のこれまでの歩み

●1936年

レーヨンフィラメント
[1995年 生産中止]

●1962年

ポパールフィルム

●1969年

ポリエステル長繊維

●1990年

<ベクトラン>

西条事業所 の 特徴

長い歴史と最先端技術を有する生産事業所

西条事業所は、1936年にレーヨンフィラメントの生産事業所として誕生した後、1969年にはポリエステル長繊維の生産を開始し、繊維製品を中心に展開してきました。1990年以降は、〈ベクトラン〉や〈クラフレックス-MB〉、〈ジェネスタ〉、〈ベクスター〉など、将来の成長が期待できる製品に加え、当社の主力製品のひとつである光学用ポパールフィルムも生産しています。このように、長い歴史の中で育まれてきた文化と当社の最先端のモノづくり技術が詰まった生産事業所です。

PICKUP

長い歴史の中で深めてきた 地域とのかかわり

長い歴史の中で地域の皆さまとのかかわりを深めてきた西条事業所。事業所と地域の人々のため西条中央病院を開業時から支援してきました。また、創立当時から自然環境を大切にしている姿勢は現在にも受け継がれており、樹齢80年を超えるソメイヨシノをはじめ、事業所内には桜が約100本あり、毎年春には桜並木を地域の皆さまに一般公開しています。このような活動などを引き続き行い、今後も地域に根付いた事業所を目指します。



高機能化に伴い成長

ポリエステル長繊維 〈クラベラ〉

高機能ポリエステル長繊維〈クラベラ〉は、1969年の生産開始から昨年50周年を迎えました。日本の経済成長に伴い発展し、常に高機能化を進め、独自素材の開発に注力してきました。現在では水溶性繊維〈ミントパール〉、導電性繊維〈クラカーボ〉など、他社にはない特徴のある差別化された繊維を数多く生産しており、幅広いお客様にご利用いただいています。



働き方改革推進中!

社員一人ひとりの業務効率化への意識向上に取り組んでいます。
今回、その一部をご紹介します。

「働き方改革」の一環として、計画的かつ効率的な業務遂行の意識を醸成するため、各社員が始業時に一日の業務スケジュールを立て、残業が必要となる場合は、デスク上・掲示板などに残業する旨を宣言する、「残業宣言」を事業所全体の活動として実施しています。これにより、定時内に



業務を完遂させることが基本であるという認識を一人ひとりの社員が持つことに繋がっています。

●1995年

〈クラフレックス-MB〉

●1999年

〈ジェネスタ〉

●2001年

〈クラゲール〉

●2006年

〈ベクスター〉





事業所長に聞く

クラレを支える 西条事業所の様々なチカラ

西条事業所長 伊木 隆

Q1

安全への取り組みを教えてください。

A 「安全はすべての礎」を行動原則に、設備や作業の安全化を着実に推進するとともに、自分や仲間を主体的に守る意識の醸成などを通じ、「安全・安心」の実現を目指しています。2019年度からは、社員の「気づき」を大切に、確実に改善行動に繋げる「1日の振り返り」活動を実施しています。また、業務経験の浅い新人などを教育するシステムの運用や、毎年安全行動アンケートに基づき、一人ひとりの安全意識の向上を図っています。

Q2

品質への取り組み(こだわり)を教えてください。

A お客様に満足して使用していただける高品質な製品を安定的に供給することが事業所の基本的な存在意義です。各部署では付加価値の高い製品を生産・開発しており、それぞれのお客様の要望や必要な品質管理に応じて、ISOを含めた各種の監査や運用を確実に遂行しPDCAを回しています。また、これらの品質と供給能力を維持・向上させる生産技術の開発にも弛まぬ努力を継続しています。

Q3

地域社会とのかかわりについて教えてください。

A 地域の皆さまとの共存・共栄を重視し、様々な取り組みを実施しています。小学生に化学の楽しさを伝える「わくわく化学教室」(1992年より)、市内の小学校へ本を贈る「クラレ文庫」、県内外から約1万人が来場される「観桜会」(桜並木の一般公開)、野球場や体育館の開放、事業所周辺の清掃などを長年にわたり続けています。また、愛媛県警・西条市消防と防災協定を結び、災害時には事業所の一部を対策拠点・ヘリポートとして提供することとしており、地域防災にも取り組んでいます。

Q4

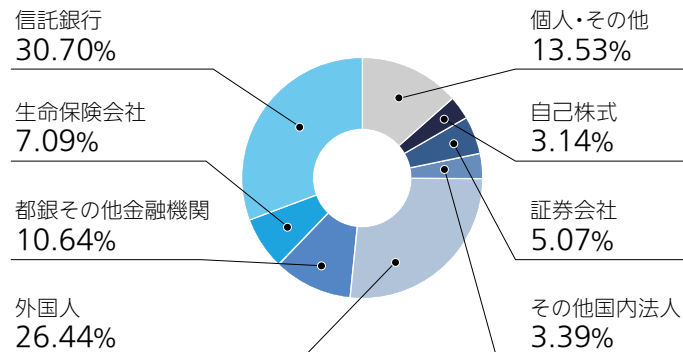
今後どのような事業所を目指すのか教えてください。

A 2026年の創立100周年に向け、長期ビジョンの「ありたい姿」に掲げた“独自の技術に新たな要素を取り込み、持続的に成長するスペシャリティ化学企業”の実現に向け、その一翼を担う主力事業所として存在感を示していきたいと考えています。このために企業の成長の原動力となる社員が誇りを持ち、働き甲斐をより感じられる事業所を目指します。また、製品の付加価値の向上、コスト競争力の強化のために生産革新活動を継続するとともに、地球環境保護にも注力していきます。

株式の状況

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,000,000,000株	354,863,603株	52,200名

株主構成(持株比率)



お知らせ

株主優待制度について

2019年度12月末の株主名簿で1,000株以上保有の株主様に、保有期間に応じてオリジナルカタログギフトを贈呈します。

カタログギフトには当社グループの製品を使用した商品や、大原美術館や倉敷国際ホテルなど当社関連施設の利用優待券、当社グループ国内拠点所在地の名産グルメなどを掲載しています。(対象となる株主様にはカタログを同封しております)

なお、2020年6月末の株主名簿を対象として、2021年版オリジナルカレンダーをプレゼントします。2020年9月上旬頃、ハガキ等でご希望をおうかがいします。詳しくは次号クラレ通信をご覧ください。

2019年度の「社会貢献ギフト」国連WFP寄付コースへのお申し込みは、総額92万8千円となり、お申し込みいただいた皆様に代わり寄付させていただきました。たくさんのご賛同、誠にありがとうございました。

投資家向けページのご案内

投資家情報



当社Webサイト内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の様子の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。ぜひご覧ください。

<https://www.kuraray.co.jp/>

クラレ 検索

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9時~17時)



2019 Constituent
MSCI ESG
Leaders Indexes



2019 Constituent
MSCI ジャパンESG
セレクト・リーダーズ指数



2019 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

クラレは世界的なESG投資指数の構成銘柄に選定されています。

会社概要

社名	株式会社クラレ
英文社名	Kuraray Co., Ltd.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2019年12月31日現在)
本社所在地	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
Webサイト	https://www.kuraray.co.jp/

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
イソブレン	イソブレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、炭素材の製造・販売
繊維	人工皮革、ピニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の〈〉をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

役員(2020年3月26日現在)

代表取締役社長	伊藤 正明
代表取締役・専務執行役員	早瀬 博章
取締役・専務執行役員	佐野 義正
取締役・常務執行役員	阿部 憲一
取締役・常務執行役員	川原 仁
取締役・常務執行役員	多賀 敬治
取締役・常務執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
取締役・常務執行役員	高井 信彦
取締役(社外取締役)	浜口 友一
取締役(社外取締役)	浜野 潤
取締役(社外取締役)	村田 啓子
取締役(社外取締役)	田中 聡
常勤監査役	中山 和夫
常勤監査役	山根 幸則
監査役(社外監査役)	永濱 光弘
監査役(社外監査役)	谷津 朋美
監査役(社外監査役)	小松 健次
専務執行役員	豊浦 仁
専務執行役員	柏村 次史
常務執行役員	大村 章
常務執行役員	尾松 俊宏
執行役員	P. スコット ベニング (P. Scott Bening)
執行役員	スティーヴン コックス (Stephen Cox)
執行役員	津軽 利紀
執行役員	高野 浩一
執行役員	鈴木 一
執行役員	中村 育雄
執行役員	川原 孝春
執行役員	上山 冬雄
執行役員	渡邊 知行
執行役員	山口 勝正
執行役員	スティーヴン R. ショット (Stevan R. Schott)
執行役員	池森 洋二
執行役員	上原 直哉
執行役員	藤波 智
執行役員	坂本 和繁
執行役員	大福 幸一